



琴庄神楽団「巖島」 平清盛衣裳 あげは紋



サンクス創業20周年記念特別企画協賛事業
『新時代・平成の神楽—広島—』

シンポジウム

『新時代・神楽の可能性を求めて』

平成23年 **11月19日(土)** 18:00~19:45
会場 ショッピングセンターサンクス2階 ギャラリー森

入場無料

はじめに

古来から農耕儀礼として舞い続けられてきた秋祭りの奉納神楽は、明治の年『神職演舞禁止令』によって、神職から氏子たちへ継がれることになりました。

さらに富国強兵・殖産興業の気運の高まりの中で、神話も神楽に取り込まれ、農村の娯楽として親しまれました。しかし戦後になると皇国史観的な娯楽はGHQによって禁止されました。その時、神楽団の名を舞楽団と変え、また、『能や歌舞伎』の演目を神楽化して、農村の伝統芸能としての娯楽を守りました。

もちろん、神楽の名称はやがて復活しますが、これらの新しい演目を『新舞』、以前からあったものを『旧舞』と呼ぶようになりました。

こうした歴史背景の中で広島神楽は、伝統的な民俗芸能として、他地域の神楽には見られない独自の芸能文化を創り上げています。

そして平成の時代を迎えると、いよいよ神楽は『舞台芸術』として、舞台効果や演出を取り込んだホール神楽として創出され、2009年には作曲家伴谷晃二による「オロチ」が広島交響楽団と山王神楽団によって上演されるなど、演劇性の高いものに到達しました。

伝統を大事にしながらも新しい技術や演目の創作によって、神楽は地域文化の誇りとして語られるようになったのです。

今や『神楽』は、明治・大正・昭和・平成と時代の流れの中で、大きな環境変化を受けながらも、広島県を象徴する民俗芸能となりました。

今回、この『神楽』の未来への道(可能性)を求めて、展示会・シンポジウムを開きます。

プログラム

■基調講演 テーマ「スーパー神楽・中川戸」



羽原 博明さん
田原温泉支配人・元中川戸神楽団団長

■シンポジウム テーマ「新時代・平成の神楽は・・・」 一人づくり・マチづくり・神楽づくりー

【パネラー】



赤岡 功さん
公立大学法人 県立広島大学理事長・学長



伴谷 晃二さん
作曲家・エリザベト音楽大学 音楽学部長



小川 徹さん
地方公務員・石見神楽亀山社中 副代表



崎内 佑結さん
保育士・琴庄神楽団

【コーディネーター】



日隈 健壬
広島修道大学教授
NPO広島神楽芸術研究所 理事長

《メモ》

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

伝統は、時の流れと人々の心のふるいにかけられながら
受け継がれて行く。
立ち止まることなく。